

【富山市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』には、『令和の日本型学校教育』を構築し、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なもの」とされている。「個別最適な学び」として、自ら見通しを立てたり、学習の状況を把握し、新たな学習方法を見いだしたり、自ら学び直しや発展的な学習を行う姿が、「協働的な学び」として、子ども一人一人が自分のペースを大事にしながら共同で作成・編集等を行う活動や、多様な意見を共有しつつ合意形成を図る活動が想定されている。ICTの日常的な活用により、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かしていくことが求められている。

本市では、令和2年度より「主体性のある子どもの育成」を重点事項に位置づけ、その実現に向けた授業改善と教師の意識改革に取り組んでいる。主体的な学びの実現に向けた切り口として、問題解決的学習（PBL）やイエナプラン的教育、自由進度学習等と並んで、一人1台端末の活用を例示している。これらの切り口は、それぞれが相互に関連づいており、一人1台端末の活用は、全ての学習の基盤とも言えるものである。

本市では、一人1台端末の導入から4年間を重点期間と位置づけ、「使ってみる」「使い慣れる」「日常化する」「効果的に使う」と毎年、目標を掲げて端末活用に取り組んできた。今後は、すべての学校において、「効果的に使う」ことが達成されるよう、引き続き活用を推進していきたい。

2. GIGA第1期の総括

(1) 端末、ネットワークの整備内容

本市では、令和2年度末に児童生徒用一人1台端末と教師用端末（学級）担任、予備機として、31,223台を配備し、その後、令和3年度には、管理職・養護教諭用として201台、令和4年度には、担任以外の教員用として476台を配備することにより、授業を担当する全ての教職員へ端末を配備した。

また、通信環境については、令和2年度中に各学校の調査・設計を行い、校内無線LAN環境の整備を完了した。令和3年度には、一人1台端末の利用増加による通信遅延対応として、通信機器のアップグレードや通信回線の増線を行った。その後は、各学校からの個別の要望に対して業者によるアセスメントを行い、対応している。

(2) 学びの実践のための取組等とその結果

・『はじめての一步』の公開

教育DXの取組等をまとめた教員向けのホームページ『はじめての一步』を作成し、公開している。実践事例、授業や講演会の動画、研修会での成果物、利用要領、申請書等がまとめて掲載しており、一人1台端末のみならず、ICT活用を推進する際に参照できるページとなっている。

・「ICT活用・授業力UP研修会」

5年次教員を対象に毎年実施している。一人1台端末の授業や校務での利活用について学び、子ども一人一人が主語となる授業づくり、Googleアプリの実践的な使い方について、理解を深める機会としている。

- ・研究員研究「情報活用能力の育成に関する研究」「探究的な学びを支える一人1台端末の活用」
小・中学校教諭8名に研究員を委嘱し、1年間かけて研究を行い、研究収録に研究結果を掲載している。研究員の実践をとおして、端末の活用方法が広がり、教師の授業観の転換が必要であることが明らかになった。探究的な学びについては、現在も研究を継続している。
- ・「GIGAスクール構想推進研修会」
令和5年度には、市内5つの小・中学校を推進校等として、授業と校務の両方から一人1台端末の活用を図った。推進校等の授業公開をとおして、具体的な授業の様子から授業改善へのヒントを学ぶことができた。また、校務に関する情報交換を行い、先進的な取組例を共有した。
- ・出前講座「ICT活用等支援」
各校からの申込みにより、出前講座を行っている。各校の現状を聞き取り、実態に合わせた講座内容としている。具体的には、「GIGAスクール構想とは」といった端末活用の意義や目指す学び等から、端末の使用方法まで多岐にわたる内容を扱い、明日からすぐに端末を活用できるような講座としている。
- ・モバイルルーターの貸し出し
経済的な理由により、Wi-Fi環境が整っていない家庭に対し、学習者用モバイルルーターの貸し出しを行っている。これにより、一人1台端末を家庭に持ち帰って、活用することができる。

(3)明らかになった課題

①国が示す通信帯域への対応

令和6年4月に文部科学省が「学校ネットワークの現状について」で示した「学校規模ごとの帯域の目安」によると、本市の約75%の学校は目安を満たしていない。

②活用場面の限定

「ICT機器活用状況に関する調査」では、「情報収集をする場面」での活用が高く、「課題を設定したりする活動」での活用が低い。情報育成能力の幅広い育成が望まれる。

③学校間・教員間の活用における格差

全国学力・学習状況調査の質問紙の結果から、学校ごとや同じ学校であっても年度によって利活用の状況に差があることが分かった。これは、学校内に活用を推進するリーダーが不在であることや、担任や授業担当者によって使用頻度に差があることが原因であると考えられる。

3. 一人1台端末の利活用方策

GIGA第2期の端末の整備・更新により、GIGA第1期の一人1台端末とネットワーク環境を引き続き維持し、さらに向上させていく。一人1台端末の日常的な活用をさらに進めていくとともに、個別最適な学び・協働的な学びの充実を目指していく。探究のプロセス（課題の設定、情報の収集、整理分析、まとめ・表現）の中で一人1台端末を文房具の一部として日常的に活用することができる児童生徒を育てる。そのために、リーディングDXスクール指定校2校（令和6年度）やGIGAスクール構想推進拠点校6校（令和7年度）において公開授業研修会を行う。参加する市内各校の推進リーダーが「主体的な学びに向けた授業改善を行うための一人1台端末活用」について具体的に学ぶことで、活用率の向上を図り、効果的な活用について横展開を図る。また、教員の技能レベルに応じて基礎から応用まで実践的に学ぶことができる研修を行う。

さらに、子どもの命を守るための一人1台端末活用として、クリック一つで教育相談を気軽にできるシステムを構築したり、不登校児童生徒支援としてのメタバース（仮想空間）の活用をしたりする。